

ルーデン・ビルマネジメント

代表取締役社長
西岡 孝氏



平成18年に上野に本社を置く創業50年を迎える管理会社に対してM&Aを行い、平成20年にはホールディングス化を実施するなど、グループ会社間の連携を深めるルーデン・ホールディングス(東京都新宿区)。同グループの中でビルメンテナンス部門を担うルーデン・ビルマネジメント(東京都

お役立ちサービス 百花齊放
ビル経営サポート企業集



代表取締役
早田 孝司氏

ツインエコ

健全なビル経営を行う上で必要となるのが専門的な知識を有するパートナー企業である。ビルオーナーはビル経営のスペシャリストである必要がある。しかし、ビルの各種設備の専門家である必要はない。オーナーはその各種設備の専門家を知っており、いつでも相談できる関係を築いておけば良い。本特集では様々な角度からオーナーをサポートする企業を取材したので参考にして欲しい。

ビル・マンション等のリフォーム工事を実施するにあたり、テナント入居者から寄せられる夜間

リフォーム工事に伴う照明問題を一挙に解決

取得で高品質な管理サービスを提供

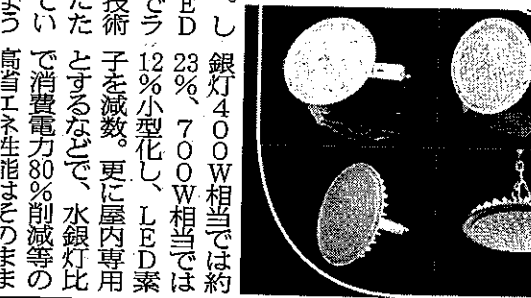
ビルメン会社M&Aで急成長・事業拡大

いわば近からず遠からずの他業界から見ると、管理業界には「首都圏だけ見てもこれだけの数のビルがあるわけだから、伸び代が十分ある」と(西岡氏)と考えたという。そこで新たな顧客開拓と既存顧客の満足度向上のための施策の一つとなるのが「ISS09001」の取得。また2年前には「建築物環境衛生総合管理業」に登録するなど、一連りの管理業務を受託する「D

OPTILED LIGHTING

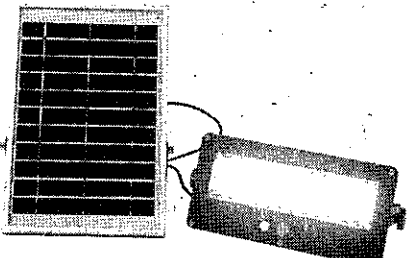
OPTILED LIGHTING (東京都台東区)は、低価格の高天井用LED代替L D代替LED照明器具の開発に成功し、需要の高い水銀灯400W相当と700W相当を「ベネフィットシリーズ」

製品寿命による交換の際のメンテナンスコストが高額であるためだ。また、平成25年に採択・署名された水銀条約の条文に、5年後の平成32年までに水銀灯の製造、輸出、輸入が禁止される内容が盛り込まれたことも、LED化に拍車をかけた要因となっている。LED化に拍車をかけた要因となっている。LED化に拍車をかけた要因となっている。



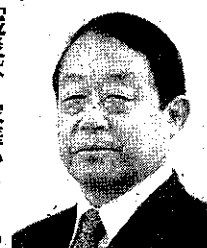
季節によって、家庭内の家庭内の危険環境を整備するが、電気器具の複雑化、多様化は、危険な状況はほぼ年間を通して存在している。このことは、危険なトラップ

エコ(東京都江戸川区)のソーラー式セキュリティライト。専用のソーラパネルを用いて太陽光でバッテリーに充電するため、電源は不要。コンセントの場所や配線を気にする必要はない。製品寿命による交換の際のメンテナンスコストが高額であるためだ。また、平成25年に採択・署名された水銀条約の条文に、5年後の平成32年までに水銀灯の製造、輸出、輸入が禁止される内容が盛り込まれたことも、LED化に拍車をかけた要因となっている。LED化に拍車をかけた要因となっている。



製品は取り付ければ運ばせて自動制御で、メナはその動作特性だ。暗くなるころん、現場従事者の事故防止にも有用である。また、人が来ると補助照明や看板や植樹のライトアップなど用途は広い。直射日光の当たる常夜灯とセン場所という制約はあるもソーラーの特長を合わせ持ったユニークな商品といえる。ソーラー式でありながら、700ル(60W白色電球相当)の明るさを有し、照度は十分。大容量バッテリーを搭載し、朝まで点灯可能だ。後の躍進が期待される。

特別コラム
大地震への防災対策の第一歩は自宅から



金子 富夫氏
内閣府防災推進協議会・一般社団法人防災安全協会 顧問
災害対策アドバイザー
伊豆半島防衛コンタクト 総務部長
元東京消防庁消防官、元大田区議会議員

「被災は 家庭から」のフレーズを家庭内のあ一般的に被災と言つと、建物不燃化、道路拡幅、防災空地の確保、人的には帰宅困難者受け入れなど、国や地方自治体、企業が行うものだとする概念が動いていると思う。しかし、被災の原点は「家庭内」にあるものだとお伝えしたい。

普段は見慣れている家庭内は、台所(キッチン)、居間、倉庫、トイレなどに、ヘアスプレー、電気コンロ、ガスストーブ、天ぷら油、タコ足配線など様々な危険な「火の元」が意外に存在している。次は、電気コードの整理である。パソコンやテレビ、携帯電話の充電器の配線などは、危険な状況はほぼ年間を通して存在している。このことは、危険なトラップ